

# 輸入粗飼料の情勢

全 酪 連  
購買生産指導部  
購買推進課

## 北米コンテナ船情勢

北米西海岸航路は乗継航路を含めて主要な本船スケジュールの乱れが続いており、遅延が発生しています。世界最大の積替港のシンガポールでは、改善は見られるもののコンテナの滞留が続いており3～5日程度の沖待ちが発生しています。

パナマ運河の濁水による通航隻数の制限は日を追うごとに緩和されていますが、依然としてスエズ運河近くの紅海での商業船へ向けた攻撃は続いており、世界的な物流状況の回復までは時間が掛かる見込みです。

カナダでは鉄道労働組合(TCRC：Teamsters Canada Rail Conference)とカナディアン・ナショナル鉄道(CN)および、カナダ太平洋カンザスシティ・サザン鉄道(CPKC)の労使交渉は、組合側からの争議行為としてストライキ告知まで発展しましたが、告知内容が労働基準法に違反する部分があったとして労使関係委員会(CIRB)より取り消しの告知が宣言されました。しかしながら、労使交渉は緊迫した状況が続いているため、今後の状況には注視が必要です。

## ビートパルプ

【米国】

7月は全米各地で生育が順調に進み、8月中旬より24年産の製造が開始される見込みです。ミネソタ州やアイオワ州の一部の地域では6月に発生した豪雨による洪水の影響で、収量は例年並み～例年以下と予想されています。

7月1日よりEU(欧州連合)はロシア産の穀物や油糧種子、穀物製品の輸入関税を引き上げました。ロシア産ビートパルプに対しても関税が適用となったため、米国やエジプトといった他産地へ需要が流れ始めており、今後の相場動向には注視が必要です。

## アルファルファ

ワシントン州

主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは、24年産2番刈の収穫が終了し、3番刈の収穫作業が順次開始されています。天候に恵まれたことで、2番刈の品質

は、色目が良く葉付きが良好なものが多く収穫されています。

依然として、日本や中国の需要減退や産地相場の低迷により輸出業者は積極的な買付を行っておらず、産地での取引は鈍化しています。

## オレゴン州

主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは、1番刈の収穫が終了し、2番刈の収穫作業が開始されています。収穫作業中の降雨により30%程度が雨あたりとなりましたが、春先の冷涼な気候もあり、例年に比べ茎細で、葉付きが良好な成分が高い品質も多く発生しています。米国内酪農家は近隣州含めて成分値が高い1番刈を買付する風潮があることから高値でも買付を進めており、産地相場は堅調に推移しています

同州中部クリスマスバレーにおいても1番刈の収穫が終了しています。1番刈の収穫時期は例年よりも遅かったものの、収穫期の天候が安定していたことで降雨被害はなく上級品が多く発生しています。上級品ということもあり生産農家は強気の価格を提示していますが、輸出業者は輸出需要に見合わない価格帯となるため買付は進んでいませんが、クラマスフォールズ同様に米国内酪農家は買付を進めています。



(24年産1番刈オレゴン産アルファルファ 7月中旬撮影)

## カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在5番刈の収穫が終了し、圃場によっては6番刈の収穫が開始されています。産地では連日40℃を超える気温が続き、成分値が低く、色褪せたサマーヘイ中心の発生となっています。成分値の低下に伴い、需要が低迷している中、牧草生産からの収益確保を諦めアルファルファの種子生産へ切り替える生産農家もいるようです。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、7月15日時点でのアルファルファの

作付面積は142,263エーカー（前年同期は145,769エーカー）と前年同期比98%と減少しています。

## ネバダ州

ネバダ州北部では2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。ワシントン州やオレゴン州同様に春先の冷涼な気候が続いたこともあり、1番刈の品質は良品が多く発生しています。成分値が高い品質のアルファルファは米国内酪農家向けで堅調な需要がありますが、輸出業者は産地相場を見極める状況が続いています。

## ユタ州

ユタ州では1番刈の収穫作業が終了し、現在2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。天候に恵まれ降雨被害がなかったこともあり、収穫された品質は良品が中心となっています。24年の総生産においては、冬季期間の降雪や降雨により十分に地下水もあることから、このまま順調に生産が進めば4番刈まで実施できると予想されています。

## 米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースンおよびエレンズバーグ、アイダホ州では1番刈の収穫作業が終了しており、2番刈の収穫作業が開始されています。春先の冷涼な気候や、各産地での降雨被害はわずかということもあり、収穫された1番刈の多くは上級品で中～低級品の発生は限定的です。1番刈収穫後は他作物への転作や、山間部の貯水池の水不足により農業用水への取水制限も予定されていることから、24年産の生産量は23年産と比較し減少する見通しです。

産地相場は米国内馬糧向けの需要が旺盛かつ、一部の輸出業者が保有していた繰り越し在庫の出荷目途もついたことで、積極的に買付が進められており価格は堅調に推移しています。

## スーダングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1番刈の収穫が最終盤を迎えており8月中旬には終了する見込みで、2番刈の収穫作業も7月末より開始されています。湿度の高い日があったものの好天に恵まれたことで、これまでに収穫された1番刈の品質は上～中級品の発生が中心となっています。産地相場低迷もあり2番刈の生産を行わず圃場にすき込む生産者も多く、更なる生産量の減少が懸念されています。

23年産の在庫に加え、未だに22年産の旧穀在庫を抱えている輸出業者もいるた

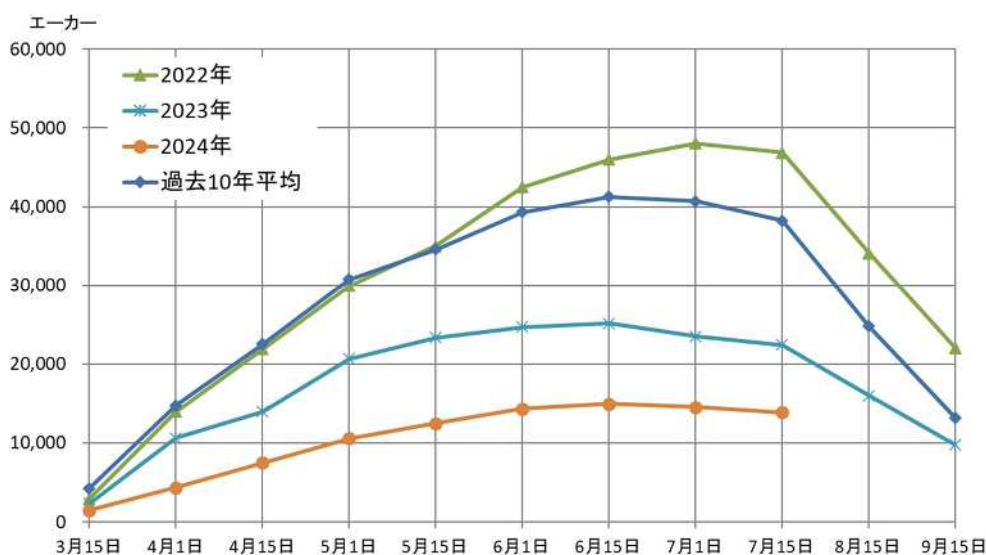
め作付面積の減少による供給力に懸念はありませんが、今後の相場次第では今期の生産量と繰り越し在庫より需要が上回ることも考えられるため注視が必要です。

灌漑局の発表によると、7月15日時点の作付面積は13,879エーカー（前年同期は22,456エーカー）となっており、前年同期比62%と、低水準での推移が続いています。



左：スーダングラス上級品 7月中旬撮影

右：1番刈収穫後、すき込んだ圃場



インペリアルバレー スーダングラス作付面積推移（単位：エーカー）

### クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、2番刈の収穫が終了し、圃場によっては3番刈や4番刈の収穫が開始されています。

産地では湿度が高い日もあり、圃場での乾燥に時間を要したことで2～3番刈りの一部では色褪せたような品質も発生していますが、柔らかく葉付が多い良品も多く生産されています。DIPプログラム（休耕地政策）が実施される場合、4～5番刈を生産

せずに24年産の生産を終了する生産農家も出てくる可能性もあり、総生産量は30%減少すると言われています。

灌漑局の発表によると、7月15日時点の作付面積は21,119エーカー（前年同期22,179エーカー）となっており、前年同期比95%とやや減少しています。

## バミューダ

主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは現在バミューダヘイの3番刈の収穫が開始されており、副産物のストローについても収穫が開始されています。種子の生産が活発に行われているため、ストローの生産も多く、安価な草種として輸出向けに限らず米国内肥育農家向けにも出荷されています。

灌漑局の発表によると、7月15日時点の作付面積は68,543エーカー（前年同期：65,080エーカー）、前年比105%となっています。

## DIP（Deficit Irrigation Program）プログラム（休耕地政策）について

6月末にインペリアルバレー灌漑局よりDIPプログラムの詳細が正式に発表され、現在、政府環境機関の最終判断待ちとなっています。

DIPプログラムの対象はアルファルファ、クレイングラス、バミューダ（多年草）となっており、生産農家は生産している品目、収穫進捗に併せたプラン（45日/60日の休耕日数）を選択し、圃場への水入れを止め、節水することで補助金を得るという内容です。

生産農家は牧草生産とDIPプログラムへの参加を比較してより収益を得られる方を選択しますが、牧草の相場が低迷しているため、多くがDIPプログラムに参加する見通しです。このDIPプログラムが決まった場合は2026年度までの3年間実施されるため、夏場の牧草生産が減少し価格高騰の一因になることが懸念されています。

## カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区では1番刈の収穫が終了しています。今年は生育期の降雨により土壌状態は良好でしたが、7月に入り高温な日も続いたことで一部茶葉が見られており、中級品が多く収穫されています。生産農家は2番刈の収穫に向けて灌水や施肥の準備を進めています。

同州中部のクレモナ地区では、例年と比較して1週間程度生育が遅れていましたが、6～7月の猛暑と乾燥により生育が早まりました。現在、1番刈の収穫作業は最終盤を迎えており、収穫された品質は中級品が中心となっています。8月も乾燥した日が続くため収量は例年を下回るものの、低級品の発生は限定的になる見通しです。



## 豪州産オーツハイ・ウィートストロー

7月は西豪州や南豪州で例年を超える降雨がありました。8月も各地域で降雨予報が出ているため、生育も順調に進むと予想されています。今後の降雨量次第では収量へ影響を及ぼす可能性があることから注視が必要です。

韓国や台湾向けの輸出量は順調に推移していましたが、韓国向けで供給過剰となっており落ち着いています。中国向けは輸出認可解禁後、右肩上がりに需要は回復していましたが、現在の中国国内の酪農情勢は良くなく乳製品の需要も停滞しているため、今後の輸出量は大きく増加しないと予想されています。

豪州海運情勢については紅海問題やアジア地域の積替港に残留している大量のコンテナの影響により、引き続きスケジュールの乱れが続いています。船会社はスケジュールの正常化のためにblank sailing（抜港）や寄港の調整を行っていますが、回復には時間が掛かる見通しです。

以上